

**学校の教育目標** 「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」  
**学校経営ビジョン** 「変化の激しい社会を、たくましく生き抜くための学力や生活習慣を身に付けた生徒の育成をめざす。また、串間市小中高一貫教育と連携型中高一貫教育への取組を通して、郷土愛をはぐくむとともに、人生の目標や夢をもって、地域に貢献できる人材の育成に努める。」

	評価項目	計画項目 【方策・手立て】	数値目標	結果	達成状況（○）と改善方策（★）	自己 評価	学校関係者評価 委員のコメント	評価
ビジョン 実現の ための 重点目 標	①「分かる」「できる」を実感する授業の改善	読解力の育成を図る授業改善の取り組み 【主題研究】	職員による授業評価チェック（4段階） 平均3.5点以上	授業評価（職員） 平均3.57点	○『読解力』育成を目指した授業改善に取り組めた ★参観授業のフィードバックを確実にし、各教科の授業改善の協議を進める	2.8	○読解力育成を目指した授業改善に、新聞を取り入れたらいいと思います。 ○①と③において、数値目標に近い結果（評価）が示されているが、自己評価との格差が、職員間における評価基準が共有されていないのではないかと思料される。 ○わかる授業の改善に取り組む姿勢がうかがえた。 ○定期テストの平均点数目標に対して数値が低いのが気になります。生徒の意識改革が必要ではないでしょうか。 ○授業を中心とした学力については、どの教科についても基礎的な学力を養う工夫に努めていただきたい。 ○授業を中心とした学力の定着には、目標とかなり隔たりがある。 ○中高連携の取り組みは、いい結果が出ていると思います。今後もさらに充実した内容で取り組んでください。 ○意欲的に学習に取り組む生徒の育成については授業の工夫・改善が結果としてつながっていると思う。 ○基本的な学習習慣の確立は、基本である1分前着席に定着がうかがえる。 ○学習意欲のある生徒に対して、個別指導の場を設け、底上げを図ると良いと思います。 ○数値目標の「定期テスト70点以上」に対して平均が3年52.4点と気になった。改善方策として今後につなげるよう定着してほしいと思う。 ○意欲的に学習に取り組む生徒の育成は、英語科の少人数指導により効果が大きい。	3
	②授業を中心とした学力の定着	授業内容の定着を図る課題への取り組み 【週末課題、宅習】	定期テスト 平均点70点以上	2学期平均 1年（52.9点） 2年（59.1点） 3年（52.4点）	○週末課題（教科1枚ずつ）と宅習に継続して取り組んでいる ○欠時数確保のために校時程を修正し、時間を確保した ★課題の確実な取組のために指導の時間を設定して実施する。 ★学習内容の定着のために指導の時間を定期的に設定する。	2.4		
	③基本的な学習習慣の確立	学習委員会による点検活動の実施と教師の支援 【学習の心得の指導・徹底】	点検・評価（5段階） 平均4以上	点検・評価 平均3.8	○学習委員会の1分前着席呼びかけが定着してきた。 ★授業中の姿勢、授業開始・終了時のあいさつで「語先後礼」の指導を徹底する。 ★教職員の共通理解（立腰、返事、学習委員会の動き）を徹底させる。	2.8		
	④意欲的に学習に取り組む生徒の育成（中高連携）	乗り入れ授業の工夫・改善（第3学年数学・英語） 【高→中、中→高の教師による授業の実施】	生徒の満足度（4段階） 肯定的な評価の割合 4及び3段階 80%	（1学期→2学期） 数学 91→94% 英語 69→81%	○1学期の結果を受け、英語科では少人数指導に変更した。 ★中高で実施した中高連携に係る職員研修を次年度の取組の改善につなげる。	3.1		
豊かな心の育成	①命を大切にす学校づくりの推進	職員研修による指導力向上 【人権教育研修の実施】	人権研修 1回	道徳研修 2回（長期休業中） 人権研修 1回（地区研修大会）	○道徳の授業の在り方、評価の仕方について全体研修で共通理解を図った。12月に人権旬間を設定し、生徒、職員ともに啓発と自己評価を実施した。 ★長期休業中の研修を実施し、年間を通じた活動に取り組む。	3.2	○近頃親の虐待や殺人事件など多く耳にします。これらに関して生徒たちにも常に命の大切さを教え話し合ってください。 ①並びに②については、人権啓発月間等行政と一体となった啓発行事により推進を図ることが効果的であるのでは…。 ○命を大切にす学校づくりの推進では、評価することの困難さを理解できる。 ○道徳教育の推進は、学年で準備することにより効果的であると評価できる。 ③については貸出数の数値を上げることも大事ですが、毎月読んだ本の感想文を書かせると読解力の向上につながると思います。 ③については全校生徒数においてもう少し利用推進すべく工夫が必要だと思われる。 ○図書館利用推進と積極的活用は2学期少ないのは運動会等により少ない。 ④ボランティア活動に対する参加は、学校の日程の関係上難しい面もありますが、生徒たちが地域の皆さんとのつながりをもつために大切なことだと思いますので、極力参加をお願いします。	3
	②道徳教育の推進	道徳科の授業力向上 【週1時間の授業を中心とした確実な指導】	35時間以上確保 道徳研修 1回	～2学期 100%	○授業準備を学年で進めることができたので、授業の進め方を共有しながら実践することができた。 ★時間割調整を確実にして、授業が欠けないようにする。	3.0		
	③図書館利用推進と積極的活用	図書委員会による利用推進活動の実施と教師の支援	月間貸出冊数 300冊	1学期平均 約320冊 2学期平均	○朝読書、ピブリオバトル、図書通信は計画通り実施。読書推進に関わる活動では「読み聞かせ」にも積極的に取り組んだ。 ★新たな利用者を増やすために、利用日の工夫、新刊図書の	2.4		

		【朝読書、ビブリオバトルでの推薦図書を選定、図書通信作成・配付】		約150冊	展示場の新設等を検討している。		④については家庭教育の在り方等検討すべきではないと思われる。 ○文化発表会や体育大会などで、生徒自らが行動（考動）する姿が見られました。 ○規範意識や他者を尊重する意識の醸成は、ボランティア参加について保護者同行の義務化により難しいと思われる。 ○地区研修大会に全職員で参加できて、人権活動に参加でき、今後の指導力向上にプラスになるのではないかと考える。	
	④規範意識や他者を尊重する意識の醸成（中高連携）	生徒主体による活動の推進【ボランティア活動参加、学年生徒会の企画・運営指導】	学年集会 年6回以上の実施	2学期までに8回 ボランティア3回	○学年生徒会を中心に学年集会が実施できている。 ○ボランティアに参加した延べ人数 40名 ★学年の課題や状況に応じて、集会以外の日常的な活動について、さらに主体的な取り組みにしたい。	2.6		
健康と体力の向上	①体力とスポーツ水準の向上	体力・運動能力の向上【授業方法の工夫とグループングの活用】	保体の授業に意欲的に取り組む 80%以上	主体的に取り組む生徒 67%	○体育大会への取り組みは、各種練習を積極的に行うなど満足度が高い。部活動にも意欲的に参加している。 ★体力向上のための授業改善、運動時間の確保に取り組んでいる。	3.0	①については、中学校が1校になったの成果は確実に表れています。今後も生徒の競争力を身に付けてさらに成果を上げてください。 ○体力とスポーツ水準の向上は、主体的な取り組みが乏しい。 ②私たちの時代は質素な弁当でしたが、友達と弁当のおかずを交換して食べ合うのが楽しみでした。年2回の弁当の日を利用して友達同士食べ比べをしてみたい。 ○食育の推進は、家庭科での練習の成果が生きている。 ③歯の治療は大人でも非常に抵抗があります、しかし、歯は人間の健康に関しては非常に大事です。親の意識改革も必要ですね。 ○保健管理の充実、治療者が少ない。 ①②③については保護者との連携を密に情報の共有に努めてほしい。 ○部活動推進は、先生の努力で充実している。 ④については生徒の志向が多面化していることや通学時間等により部活に参加できないことなどが考えられるので、多くの生徒が積極的に参加できる体制づくりに努めていただきたい。 ○生徒の登下校の様子では問題ないと感じます。 ○串間の食材を利用した弁当の日の取組により、地元の良さも伝わったと感じます。 ○歯の治療率の低下が…やはり部活動などでいける時間が…集中的に夏休み等を利用するとか…難しい課題ですね。	
	②食育の推進	食事と健康の関連について「弁当の日」2回/年の理解【弁当の日の事前学習「家庭科・学級活動」】	「弁当の日」2回/年 一品以上つくる生徒 80%	11月、2月実施 11月実施時 80%	○調理実習（家庭科）でつくったおかずや配付したレシピを参考に、生徒自身が意欲的に弁当づくりをしている。 ★事前学習（学級活動）を実施し、生徒の意欲喚起と家庭、保護者への啓発活動を行う。	3.1		
	③保健管理の充実	予防策と早期治療を促す取組【フッ化物洗口の実施、検診結果の通知・指導】	フッ化物洗口定期実施 1回/週 歯の治療率 80%以上	治療率 24% 実数；要治療者(率) 45人/395人 (11.3%)	○2学期までに3回のお知らせを配付し、面談でも個別に伝えた。 ○継続してフッ化物洗口に取り組んでおり、要治療者数は少なくなっている。 ★学年・学級からの啓発、保体委員会の活動と連携して取り組みたい	2.7		
	④部活動推進（中高連携）	中高連携による重点活動の計画と実施【全部活動において合同練習会】	各部1回以上/年	合同練習実施 5/12部	○実施できた部とできていない部がある。 ★3学期に実施できるよう中高の顧問で具体的に計画と実践	2.4		
キャリア教育の推進	①小中高一貫教育の推進	『くしま学』における体験活動の活用【地域資源（産業、人材）の積極的活用】	生徒の満足度 80%	職場体験学習 満足度 89%	○市教委との連携により新たな事業所で職場体験学習を行うことができた。 ★年度当初に市教委と十分に協議し、それぞれの分担等を確認する	3.2	①については、「くしま学」を通じての職場体験など子どもたちの意識は非常にレベルが高いと思います。今後も内容を検討しながら推進してください。 ①並びに②については、串間を誇れるような人材育成に努めて頂くために、地域の宝である人材等の資源を有効な活用に取り組んで頂きたい。 ○小中高一貫教育の推進は、職場体験学習の満足度が高い。 ②各学校と連携をとりながらもう少し回数を増やしたいと思っています。 ○地域を大切に、地域に貢献しようとする態度の育成は、くしま学により効果は大と感じる。 ③人口減少の中で子どもたちに故郷郷土への想いを高める授業に取り組んでもらいたい。 ○小中高一貫教育について高校生の発表会に参加するなど良い取組があったと思います。 ○地元企業への職場体験をとおして、職業観や地元に対する意識が高まったと思います。 ○内容的に充実している。	
		教科専門教員による授業の充実【小学校への乗り入れ授業】	各小学校への乗り入れ授業	2学期まで2校（保体） 6年生集合学習での授業 (美・社・英・数)	○小学校の要望により教科の授業を実施することができた。 ★各小学校の計画を年度当初に中学校の計画に取り込む。	2.6		
	②地域を大切に、地域に貢献しようとする態度の育成（中高連携）	地域と連携したキャリア教育の授業の実施【中高連携したキャリア教育の実施】	生徒の満足度 80%以上	「くしま学」に満足 76% 学校の取り組みに満足 72%	○地域と連携した「くしま学」、高校説明会に取り組むことができた ★「くしま学」の内容を見直し、系統的な内容に整理することにより、小中高一貫した学習の充実を図る。	2.9		

3

3